

「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計106人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成27年5月～9月

(2) 発表の日時・場所

平成27年10月4日（日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

赤木名校区八月踊り（あかきなこうくはちがつおどり）

(2) 由来

五穀豊穰，豊年満作を祈り旧暦の八月に踊られるようになったと言われている。また，先祖への感謝を伝える意味も込められている。幼き頃より大人たちに交じって踊っているうちに，自然と踊りを覚え現在に至っている保存会のメンバーの方も多くいらっしゃる。男性と女性がそれぞれに役割を担い，卓越した技術で唄い，踊るといふ郷土芸能である。

(3) 構成等

里，中金久，外金久の3集落が輪番で役割を担い，児童に伝承活動を行っている。

集落の区長をはじめとする，八月踊り保存会が中心となって手足の動きや体のひねり方等を具体的に指導していただいている。祝つけに始まり，さんだまけまけ・浜千鳥・赤木名観音堂・六調の順に踊っていく。本番は，壮大な音響のもと校区民一体となった踊りは感動的である。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年5月に，担当が学校応援団に連絡を取り，本年度の指導者態勢を整える。学校応援団の都合がよい日程を調整して，総合的な学習の時間として活動を位置づける。

担当や教頭が随時連絡を取り合い，活動が充実するようにサポートしていく。特に，本番の六調では，チヂン・三味線の楽器演奏，六調の歌唱を児童が担当するため7月末までにある程度演奏ができるようになった状態で，本格的な八月踊りの練習に入るようにしている。学校応援団の皆様が，本校の児童に対しいつも懇切丁寧な指導をしてくださるので，本当にありがたい限りである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

楽器や歌唱について学ぶ活動では、初めに必ず指導者に自己紹介していただき児童と親しくなっていたりしている。児童は〇〇先生と呼ぶようになり、分からない点を積極的に質問できるようになってくる。

八月踊りの練習の実際では、約30人の学校応援団の方にお集まりいただき、各学年に数人ずつ入っていただき、踊りを伝承していただく。本番では、約50人程の学校応援団が中心となり、集落民にも呼びかけ壮大なスケールの八月踊りが行われる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



総合的な学習の時間「チデンの練習」



総合的な学習の時間「三味線の練習」



八月踊りの練習



八月踊りの本番

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【1年生児童】

地域の方が来てくれて教えてくれたのでうれしかった。

【3年生児童】

難しいところがいくつもあったけれど、分からない時は学校応援団のおばちゃんがやさしく教えてくれたので踊れるようになった。

【6年生児童】

小学校で踊るのは今年で最後になるけれど、随分と上手に踊れるようになってうれしい。学校応援団の方に感謝したい。

【保護者】

地域に伝わる伝承活動を直接、地域の指導者に教えていただける点ありがたい。運動会での八月踊りは圧巻で、私たちもしっかりと受け継いでいかなければならないことだと感じた。

【保存会から】

1年生の踊りがかわいらしくて教えていて楽しいと思った。私たちも先人から教えてもらったことなので、しっかりと継承していきたい。八月踊りの練習も定期的に行っているので、参加者が増えるとうれしい。

【地域の方から】

毎年行っている運動会での八月踊りはこれからも大事に受け継いでいきたい。なかなか小学校に来ることができない方も、八月踊りを踊ることで心がつながっている感じがする。